

特集

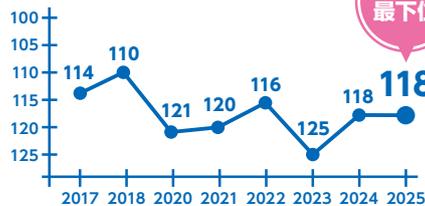
ジェンダー・ギャップ指数などからみる 男女共同参画の今 ~[国]・[県]・[市]の実態~

【国】

日本のジェンダー・ギャップ指数 (2025年)

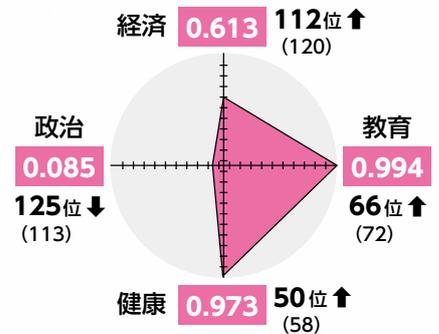
148カ国中 118位

政治	125位
経済	112位
教育	66位
健康	50位

主要先進国で
最下位

日本のジェンダー・ギャップ指数

0.666 118位

※2025年版、
WEF発表

指数が1に近づくほど男女平等、()は2024年の順位

そもそも、ジェンダー・ギャップ指数 (GGI: Gender Gap Index) ってなあに？

ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) は、世界経済フォーラム (WEF) が発表している、世界各国の男女平等度を数値で表したもので、主には「政治」「経済」「教育」「健康」の4つの分野で男女格差を分析して数値化しています。

各国に男女格差の認識を促し、その解消を目指すことを目的としています。

- ▶ 政治: 議員や政府の閣僚における女性の割合など
- ▶ 経済: 賃金格差、管理職比率、労働参加率など
- ▶ 教育: 識字率、初等教育から高等教育までの就学率など
- ▶ 健康: 出生時の性比、健康寿命など



スコア (評価数値) の考え方 (0~1)

各分野で女性の値 ÷ 男性の値 を基本に計算し、「女性が男性より不利かどうか」を数値化します。

【1.000 = 男女差が完全になく、平等】 【0.000 = 極端な不平等】 (日本は0.666)

※「差の解消」を測る指数のため、女性が男性を上回っても「1」を上限とし、それ以上は加点されません

日本のジェンダー・ギャップ指数 (GGI) の順位

上の図からもわかるように、日本は148か国中118位という順位で、G7 (主要先進7か国) の中で最も低い順位です。「教育」「健康」の分野では比較的高い水準ですが、「政治」と「経済」の分野で大きく遅れをとっており、全体の順位を下げています。

- ✓ 政治分野で女性の参画が少ない
- ✓ 経済分野 (管理職比率・賃金) の格差が大きい
- ✓ 長時間労働・育児負担の偏りなど社会構造的要因



こちらから、女性の政治参画マップ2025を見ることができます。



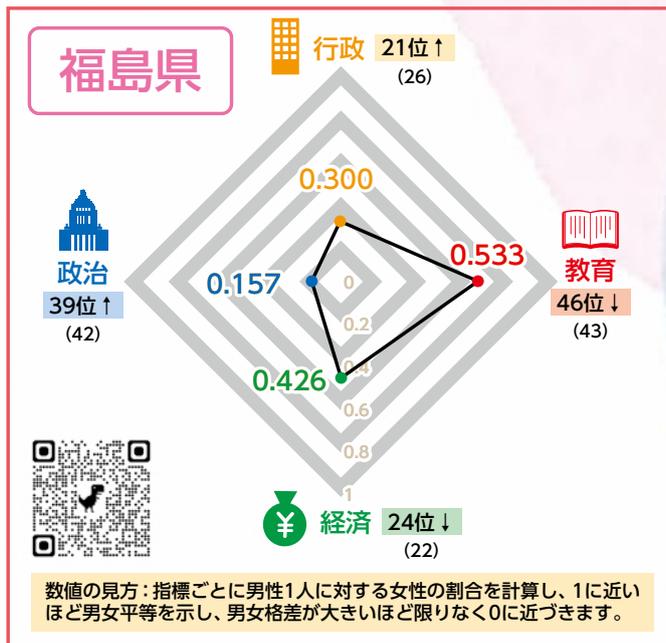
【県】【2025年都道府県版ジェンダー・ギャップ指数】

都道府県ごとの男女格差の特色を「見える化」したデータ(都道府県版ジェンダー・ギャップ指数2025)は、「政治」「行政」「教育」「経済」の4分野で男女間の平等度を示しています。

福島県の実態は右図のとおりです。各分野で様々な課題がある中、「行政」と「経済」は、比較的高い順位にあります。一方、「政治」と「教育」の分野では大きく遅れをとっています。

●福島県の主な課題

政治	女性ゼロ議会が多い 市町村議会の女性議員の割合が低い
行政	県・市町村の女性管理職の割合が低い 市町村防災会議の女性委員の割合が低い
教育	小中高の校長・副校長・教頭における女性の割合が低い
経済	就職率の男女差が大きい(男性が高く、女性が低い) フルタイム従事者の男女間の賃金格差が大きい



福島県のジェンダー・ギャップ指数
地域からジェンダー平等研究会(2025)「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数2025」をもとに作成。()内は2024年の順位。

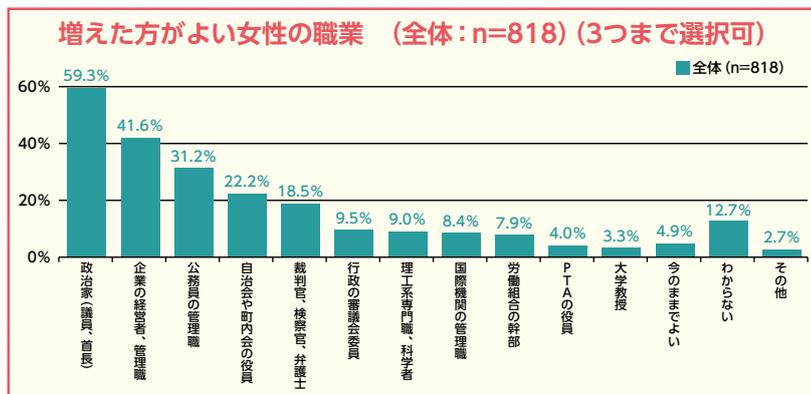
【市】

市では、「第五次いわき市男女共同参画プラン」策定の参考とするため、市民の皆様の男女共同参画に関する意識や実態を把握することを目的に、市民WEBアンケートを実施しました。

ここでは、アンケート(女性の活躍推進に関する設問)の一部と合わせて、課題の一つとしてよく挙げられる『政治分野での女性参画』の面から、『議員に占める女性の割合』の本市の実態をお伝えします。

●市民WEBアンケートの概要

- ・調査対象 市内に在住または通勤通学する18歳以上の方
- ・調査期間 令和7年9月1日(月)～9月30日(火)
- ・回答者数 818人(男性396人、女性417人、その他5人)



増えた方がよい女性の職業として、『政治家(議員、首長)』が一番多く、6割近くを占めました。

●いわき市議会 (令和7年12月時点)

- ・議員数：37人
- ・うち女性議員：7人
- ・女性議員の割合：18.9%

本市の女性議員の割合は、県内13市中、福島市(22.9%)に次いで、上から2番目の高さにあります。全国の市区別平均(20.3%)には届いていない状況です。



【参考】内閣府HP

市区町村女性参画
状況見える化マップ

全国的に、男女共同参画は徐々に進んでいる傾向にあるものの、国・県・市のそれぞれの実態を見比べると、まだまだ道半ばの状況です。国の男女共同参画社会基本法、基本計画(第6次)、県や市の条例、男女共同参画プランなどの主旨にある社会を目指し、男女共同参画をさらに進めていくには、性別にかかわらずそれぞれの立場でできることを実践し、皆がお互いを尊重し、協力していくことが重要です。